

漢のおもちゃは修羅の道也。

# 真・外道玩具伝説

(デガン)

文/根津バートン

おもちゃの神髄は駄玩にアリ！ 「子供騙し」「胡散臭い」と罵られようとも、雑草のように遅く生き残っている駄玩具に外道としての生きざまを見よ！ 第1回はガチャポン総合商社「今野産業株式会社」

## カプセル玩具を日本に定着させた男！



京成線曳舟駅前にある今野産業社屋。周辺にはガチャポン関連業者が数多く存在。近所には60年代の雰囲気を残した模型店もある。

今やすっかり我々の生活に定着した感のあるカプセル玩具だが、初めはマイナーな存在であり、ここまで来るには長い道のりがあった。今回我々は日本におけるガチャポン創世に係わる会社・今野産業を訪ねた。ガチャポンは

どのようにして日本に根づいたのか？

「終戦直後、日本はアメリカにガチャポンの中身を輸出していたんです。それを何に使うかは知らされていなかった。儲かることをバレないようにしてたんだね。昭和40年頃にアメリカのペニキ

ングという会社の社長が日本のパンアメリカン貿易商社社長に初めてカプセル玩具販売という商売を教え、日本で初めてガチャポン専門のオペレーターが誕生したわけです」

そのパンアメリカン貿易商社の社員として働いていたのが今野産業社長・



40年間、堅実な商売でガチャポン業界に貢献してきた今野明久代表取締役。べらんめえ口調で語るその姿はまさに漢である。

今野氏であった。「その会社を辞めて仲間とキディという会社を作ってね、私はそこで製造を担当していたんです。ダイヤの人造パーツを使ったアクセサリー類を作ったりしました。当時、ガチャポンがバカ売れしてね、雨後の筍みたいに会社が乱立したんです。今でいうベンチャービジネスみたいなもんだよ」

ガチャポンが初めにブレイクしたのがスーパーカーブームのときだった。

「実はね、最初はさっぱり売れなかった。プラとかダイキャストで作っていたんだけど、これを消しゴムにしたら爆発的にヒットしたんです。翌年にはウルトラマンの怪獣消しゴムが大ヒット。このとき、バンダイさんが商売になると気がついたんだね。

で、次のキン消しでは自分のところで機械も作って完全制覇に乗り出したわけです。インディアンじゃないけど、キャラクターという鉄砲でどんどん侵略されていったというのが歴史なんですよ」

80年代に隆盛を誇ったコスモスという会社もやがて消滅してしまう。



懐かしいファミコンソフトの消しゴム。最近では大人向けの商品も多い。

「コスモスさんは拡大路線が失敗しましたね。商品に対する考え方が利益に直結するところにウェイトをおいてましたから粗製濫造に走ってしまった

た。その時の悪評が業界のマイナーイメージに繋がっていたんですが、最近では大手のおかげで払拭されつつあります」

では、今野産業がここまで生き残ってきた理由は何だろうか？

「製造、ハード、営業という3本柱を崩さず、なんとか商品のレベルを上げたかったという思いは強かったですね。我々ががんばったおかげで基礎が出来たわけだし、後継者たちに道案内的役割を果たせたと思いますよ」(ポッピンアイの秘密が明かされる次号に続く)



80年初頭、今野社長が仕掛けた「バイキン軍団」がヒット。本も出版した。

### シーモンスター



70年代に「シーモンキー」として大ヒットした商品。中身は単なるブランクトン。

### 賀茶(二乗) 寿司根付け



ミニチュアフードブームに乗ってヒット。中国生産で品質は大手と変わらない。

### かおり〜む



「スライム」は他社の商標なので使えないが、機能はまったく同じである。

### 爆走トラッカー5



「当たり」は光ファイバーを使って全体のライトがピカピカと光る。

### トルマリンプレス



本物のトルマリンを配合したプレスレット。女の子の間で大ヒット商品となった。

### ポッピンアイ!



昔からある定番商品。今野産業では中国生産ではなく自社で作っている。